

ばんなし
鑿阿寺のイチョウ (栃木県指定天然記念物)
樹種：イチョウ 樹高：31.8m 幹周：8.3m 樹齢：550年以上
鑿阿寺は足利市の中央に位置し、鎌倉時代の建久7年(1196年)に、足利義兼(あしかがよしかね)が建てたと云われている真言宗の古刹である。そしてその本堂脇にこの大イチョウがそびえている。足利義兼のお手植えとの言い伝えがあるが、実際は鎌倉末期の古地図にはイチョウは載っていない。イチョウは地上3mのところから2本に分かれており、地上15m付近で枝が広がり、壮大な樹形を成している。



謹賀新年

一般社団法人日本造園建設業協会

会長 和田 新也

令和五年の年頭にあたり



新年明けましておめでとうございます。令和五年のお正月を、皆様方におかれましては、穏やかに過ごされたこと、お慶び申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、令和2年から続いた新型コロナウイルスの流行は、感染者数の増加と減少を繰り返しながら収まる気配がありませんが、経済活動の復活へ舵を切つていこうと言う動きが社会全体には見られてきました。

また、ロシアによるウクライナへの侵攻は多大な人的被害とともにエネルギー、食糧、および様々な原材料の供給問題を引き起こし、諸物価の急激な高騰を招きました。

協会活動においては、コロナ感染症の影響を受けながらも、総会、理事会は対面での開催を実施し、また、各種委員会等もWeb併用による集合形式での開催を行うことが出来ました。今後もWebと対面を必要に応じて活用し会議の効率化と内容の充実を図ってまいります。

さて、日造協が取り組むべき課題は多岐にわたります。

激甚化・頻発化する大規模自然災害に備えた防災・減災に資する取組み、担い手の確保・育成の推進を図るための建設キャリアアップシステムへの対応、安全衛生対策の推進のための墜落制止用器具等の普及促進、令和6年度から建設業界へも適用さ

れることとなる時間外労働の上限規制などにも適切に対応していかねばなりません。

また、資格制度の更なる充実のために令和6年度から設置予定の「緑地樹木剪定士」資格の運用のほか、2025年大阪・関西万博、そしてAIPH(国際園芸家協会)の日本代表として関わる2027年横浜花博への協力、さらにはSDGs、カーボンニュートラル、グリーンインフラの推進といった社会的課題に加え、今後本格的に影響が出てくるのが想定される原価の上昇対策にも取り組んでいく必要があります。

このような多くの課題への対応は、簡単になし得るものではありません。協会として実際に取り組みが始まり、わずかながらも前進している課題がある一方まだ取り組みが遅れている課題も有ります。造園業の社会的使命を見据えながら、会員の皆様のお力添えをいただき共に一歩ずつ前進してまいりますので、引き続き一層のご支援・ご協力をお願いいたします。

本年は日造協にとって第3次財政・運営中期計画を総括し、第4次中期計画をスタートさせる節目の年でもあります。この一年が、皆様にとって、また造園建設業界にとって明るい将来への展望を開く良き年になりますよう、心から祈念申し上げます。

新年の挨拶とさせていただきます。

2023年
新春座談会

持続可能な開発目標 “SDGs” への取り組み

今回の座談会は、SDGsの取り組みをテーマに、取り組み事例や課題等についてお話いただき、明日の造園産業発展への期待や可能性、また皆様の造園業界への想いなどを存分に語っていただければと思います。何卒よろしくお願いたします。

(座談会冒頭、和田会長あいさつより)

座談会出席者

- 廣部 修平氏 北海道総支部 (株)南香園
- 佐々木創太氏 東北総支部 むつみ造園土木(株)
- 松戸 克浩氏 関東・甲信総支部 (株)新松戸造園
- 渡邊 健士氏 関東・甲信総支部 東武緑地(株)
- 古橋美紀子氏 関東・甲信総支部 西武造園(株)

(司会) 前杉 昌枝 (一社) 日本造園建設業協会 広報活動部会委員

オブザーバー：和田 新也 (一社) 日本造園建設業協会 会長
 藤吉 信之 (一社) 日本造園建設業協会 専務理事
 成家 岳 (一社) 日本造園建設業協会 広報活動部会部会長

前杉 今回、司会をすることになったのは、部会でテーマを検討する際に私が「SDGs」と言ってしまったからです(笑)。それで皆さんにお越しいただくことになりました。本日はよろしくお願いたします。

さて、ご存じの通り、SDGsは2015年の国連サミットで採択され、持続可能な開発のための17のゴールと169のターゲットが示されています。

SDGsはこれまでも座談会の候補にあがっており、今回は会員の方々の取り組みも進んでいるので、いいタイミングではということになりました。

まずは自己紹介を兼ねて、どんなことをされているのかの概要を廣部さんからお聞かせいただけますか。

廣部 札幌から参りました廣部です。地域リーダーズの幹事で、松戸さんから声がけをいただきました。

地方の規模も大きいとは言えない会社で皆さんのお役に立てるか分かりませんが、地方でこんな風に考えている会社もあることをお話できたらと思います。

佐々木 今年度、日造協の理事になったばかりで、協会や業界のことなど、分かっていないことがたくさんありますが、よろしくお願いたします。

SDGsは対象が広く、取り組み方によってはいろんなもの、ことにつながり、地方と都市部における違いもありますが、造園そのものが持続可能な事業で地域に根差していることが“肝”で、取り組みを語るというより、その辺の話を皆さん

から学びたいと思います。

松戸 地域リーダーズの総リーダーとして今年で6年目になります。SDGsについては後ほどじっくり、お話しできればと思います。

渡邊 入社して約10年くらい造園工事の現場におり、その後20年近くゴルフ場のコース管理をして、次はゴルフ場の営業で、一昨年に造園工事の営業に移って、今回の座談会という状況です。日造協の活動にもこれまでなかなか参加する機会がなかったので、いろいろと勉強させていただければと思います。

SDGsについては、弊社のホームページをリニューアルすることになり、若手社員の話聞く中で、SDGsについても発信してはどうかとの声きっかけで取り組むことになりました。今日はどんな取り組みをしたかをお話しできればと思います。

古橋 こうした場に参加するのは初めてですが、よろしくお願いたします。

公園管理の部署に長くおり、今は本社で、3年前くらい前に広報専門部署を立ち上げ、現在に至ります。

SDGsに関しては、主に社内外への情報発信に関わっており、企業PRの一環として地元豊島区の子供たちに向けたSDGsイベントを今月開催するので、今はその準備をしているところです。そうした取り組みなど、少しでも皆様の参考になる話ができればと思っています。

SDGsへのさまざまな取り組み

前杉 それではSDGsの取り組みについて、具体的なお話をいただけますか。



廣部 修平氏

廣部 紹介といっても、全社一丸で取り組んでいるかということ、そこまで至っていないのが正直なところですが、業界の人手不足という課題も踏まえ、大学、高

校への出前講座で、造園の仕事を紹介する活動をしています。私自身も北海道大学や札幌市立大学で講義をさせていただいていますが、造園の仕事が知られていないことを実感します。

また、造園の仕事、環境の創造や保全について知っていただくことも、立派なSDGs、持続可能な社会の活動として有意義なことなので、社の取り組みに位置づけています。

そのほか細かいことですが、照明の

LED化、アイドリングストップなどの一般的なことを全社で進めています。

前杉 講義はどんなテーマですか。

廣部 北大では施工管理をテーマに実際の施工管理の現場について説明し、市立大学ではもう少し幅を広げて造園工事業がどんな仕事かを話しています。

学生の方々は、公務員かコンサル系の志望が多いので、施工系の仕事を知ってもらうことで、将来の選択肢を広げる一助になればと思っています。

佐々木 秋田県のSDGsに申請し、認定をいただいています。



佐々木 創太氏 育成、資格取得、インターンシップ受け入れの取得率UPで、教育力の向上です。

2つ目は、社員の健康促進と女性活躍の促進で、40歳以上の健康診断は全員人間ドックとし、女性特有のものはそのフォローアップ。現在、新規採用者の半分以上が女性なのでその率をさらに上げるのは厳しいですが、女性採用比率を基本25%と公表しているものの実際は50%以上の比率で採用しています。

3つ目は、自然環境に配慮したハイテクオリティなランドスケープの提供で、花と緑を身近に感じられる安全安心な空間

を企画から設計・施工・管理まで、ゼロからつくり上げ、人々の健康促進や豊かなコミュニティだったり、ライフサイクルが活性化する環境づくりを仕事を通じて提供することです。

はじめの2つは一般的なことで、3つ目が肝です。土木や建築に飲み込まれないためには、造園の付加価値、ランドスケープ企業として、いかに質の高い空間を創造できるかが不可欠です。新たな価値の提案の仕方は、始めたばかりで実績は多くはありませんが、見積もり依頼があったとき、要件定義書をしっかりしていこうと思っています。

単純にお客さんの要望を取り入れて見積もりを出すと、見積もりを比較されて終わりですが、同条件で比較できないよう、事前に弊社の思想と付加価値の空間づくりを行っている会社なので、見積もりを出す以上は当然このような条件になるということを伝え、その要件を確認、承諾してもらってから見積もりを出すようにしています。

プロがゼロからつくる提案をお客様に分かっていただく必要がありますし、提案が流用されるようなこともあってはならないので、そのことに同意いただいた上でお客様のライフスタイルに密着したプランづくりを始めました。

これは、弊社が取り組み中のプロジェクトの見積もりの提示に対してある会社が要件定義書を作成してこられたことをきっかけにして、自分たちの業界に落とし込んでいければと考えました。

マッピングで自社の取り組みを整理

松戸 弊社の取り組みについては、千葉銀行のSDGsセミナーでパネリストをしたときの様子が分かりやすいので、基調講演「わが社が取り組むSDGs」の概要を紹介します。

弊社は約60年前に創業し、松戸市に拠点を置き、従業員40名程度で、公園緑地の維持管理や指定管理者などを行っています。私は社長に就任した2018年に「地域に密着し、人と自然が調和した持続可能なまちづくりに貢献したい」との経営理念を掲げました。また、防災公園の施工を通じて災害対策に関心をもち、東日本大震災で除染作業に挑戦。2016年施行の女性活躍推進法にも即対応し、造園建設業で全国初、県内建設業初の厚生労働省「えるぼし認定」を受けました。

こうした中、SDGsに取り組む直接のきっかけは、ウィズコロナの時代になって、公園利用者が増加し、あらゆる人の安全と健康に役立つために、公園の価値をどの程度まで高められるかを検討していた時に、SDGsの活用を考え、松戸市の地域づくり人材を育成する「まつど地域活躍塾」のOB会とSDGsについて連携し、現在、市民向けの勉強会の講師

や学校への出張授業などを行っています。

中小企業がSDGsを進めるポイントは高すぎる目標を設定しないことで、まず自社のSDGsマップを作成しました。今まで取り組んできたことを見える化し、SDGsのゴールに当てはめると、スムーズに一步を踏み出せます。

自然に継続的に取り組めることをまず把握して、会社にSDGsを根づかせることが大事です。

また、自社ならではの取り組みを展開すること、経営層からトップダウンでSDGsに積極的に関わることで、一人ひとりが自発的に動ける社風を作ることも重要です。

そして、今回用意したもう一つの資料が、実際にマッピングという手法を用いて、会社がしてきたことをSDGsに当てはめたもので、このように17の目標を自分たちの視点で捉えると身近なものになります。



松戸 克浩氏

支部長

- 沖繩県 鹿嶋市 宮崎県 大分県 熊本県 長崎県 佐賀県 福岡県 愛媛県 高知県 香川県 徳島県 山口県 島根県 鳥取県 広島県 岡山県 和歌山県 奈良県 兵庫県 大阪府 京都府 滋賀県 福井県 三重県 愛知県 静岡県 岐阜県 石川県 富山県 新潟県 長野県 山梨県 神奈川県 東京都 千葉県 埼玉県 群馬県 栃木県 茨城県 福島県 山形県 秋田県 宮城県 岩手県 青森県 北海道
- 森根 井上 湯木 栗木 吉村 松田 村山 内山 高須 植田 藤田 稲富 多々良 持田 西谷 福島 小林 的場 今西 入谷 奈須 高石 上田 南 水谷 中嶋 内山 中山 北郷 久野 近野 山崎 依田 田口 成家 伊藤 森川 山田 増田 水庭 佐久間 今野 正木 古積 佐藤 三浦 四宮
- 清昭 恒治 弘一 康一 昌洋 英明 剛優 賀盛 誠司 秀樹 俊広 良健 正樹 勝之 慶一 和義 盛州 康彰 芳郎 正典 正弘 誠雅 春海 和敏 晴芳 忠朗 総一 慎治 陽一郎 信幸 忠典 岳高 昌紀 忠雄 博一 博洋 仁正 孝輝 昇康 利之 吏繁

造園の仕事は“SDGs” もっとアピールを

SDGsは2015年開始。2030年ゴールですから、もう折り返し地点です。今後、目標の達成などを精査し、残りの7年に向かおうとしているところです。

前杉 今までやってきたことを落とし込むマッピング、すごくいいですね。

渡邊 SDGsについて、指定管理の方ではかなり進んでいますが、全社としては整理していませんでしたので、弊社もマッピングという形で、各部門にその事業がSDGsの何のゴール



に関係しているかをあげてもらってところから始め、落ち葉を集めてたい肥化していたり、普段の仕事がSDGsの目標なんだということを社員に理解してもらえようになりました。

各部門からあがってきた取り組みは、3つの柱で整理し、1つ目はSDGsを通じたパートナーシップによる事業展開。2つ目は「お客さんから聞かれたけど何のこと？」では話にならないので、SDGsの取り組みについての社員1人ひとりの理解といった社内啓発。3つ目が対外発信、広告宣伝になります。

対外発信と社内啓発は両輪で、そこを密にしていないと発信しているのに社員が分かっていないことになります。

そこでまだ第1弾のレベルですがeラーニングとして、いつでも視聴できるようYouTubeで、自社だけでなく、SDGsに積極的に取り組む会社も紹介するなどして、社内教育を行っています。

SDGsは多岐にわたり、どこから取り組んだらいいかなど、難しそうなイメージがありますが、身近なことだと分かりやすかったりします。例えば、ウォーターサーバーから水道直結のカードリッジに変えることで、水の運搬がなくなるのでCO₂の排出を減らせますし、茶殻を再活用した抗菌シートを貼付した自動販売機の導入やマイボトルを推奨したりしています。

まだ、こうした段階ですが、今年の春から実施しているSDGs推進会議を、来年の春からは若手社員を中心に構成しボトムアップで発信したり、今後はビジネスに結び付けていきたいと考えています。

でもなかなか伝えるのが難しい。やっている仕事が変わるわけではなく、SDGsに結びつけてもやっていることは同じです。一人ひとりの取り組みが全体、地球の保全につながると考えると、同じ仕事でも意味が深くなると思うのですが、そのように認識できない立場の方もいます。

皆さんのお話を聞いて、言葉で分かってもらうのではなく、マッピングのように社員が自分でやっている仕事を落とし込んでいくと意識を高めるのに有効になる可能性が高いと思ったので、ぜひ真似させていただけます。

廣部 北海道では造園の何社かと造園協会がSDGsを掲げています。しかし、SDGsの目標達成に向けて具体的な活動を示しているところは少なく感じます。

日造協の全国造園フェスティバルひとつでも、複数の目標に該当しますし、その活動が何に結びついているのかを考える

だけでSDGsの取り組みになるし、メーカーBかCかを選ぶときに目標の達成につながるの、こっちなでねって考えると、何か選ぶときの指標にSDGsが使えます。考え方の1つだと思っています。

渡邊 廣部さんの会社のホームページを拝見させていただいて、自分たちの仕事そのものがSDGsのゴールに向かってるのではないかとということと、古橋さんも造園そのものがSDGsなんだけれど…という話がありましたが、SDGsに詳しい方とお話しした時に、仕事で木を植えているのはまさしくSDGsですよと言われました。日本人は奥ゆかしいから、そう考える人もいるかもしれないけれど、欧米の方々は、どんな小さなことでもアピールしてますよと。今日お話を聞いて、私達の仕事はすべてSDGsにつながっていて、それぐらい胸を張って話していいんだと改めて思いました。

CSRからCSV、SDGsの時代に

前杉 SDGsは単なる社会貢献ではなく、経済も含めた持続可能な開発目標ですから、「三方良し」+「地球環境良し」との認識でいいと思いますがどうですか。
佐々木 地域貢献が仕事に直結することが今後は不可欠で、CSRは限界。CSV活動にならないと持続可能とは言えないですね。

社内啓発関連では、OKRという手法を使っています。近年のテーマはむつみグリーントランスフォーメーション「M-GX」で、緑を通じた社会革新ということなんですけど、会社がある程度大きな目標、経営理念と経営計画、経営ビジョンを作って、SDGsの17項目のように、各部署が取り組む項目を20項目設定します。それを各部署で個人に落とし込み、具体的な戦術目標に置き換えるのです。

それを定期的にトップダウンとボトムアップでチェックします。まだ始めて3年ですが、それぞれの視点でチェックできるので、それぞれの立場でPDCAするのに役立ちます。

SDGsと少しずれるかもしれませんが、目標を達成する手法という視点でお話しさせていただきました。

前杉 いろいろお話を聞いてきましたが、造園業界全体のSDGsの取り組み状況や関心の度合いなどはどんな感じなのでしょう。松戸さんご存じですか。



前杉 昌枝

松戸 SDGsの目標と業としての話がありましたが、先ほどの千葉銀行のセミナーで基調講演をされたちばぎん総研の役員である長島さんが、千葉県の造園業とSDGsの取り組みについて整理しているの、造園業界の現況ということで参考にいただければと思います。

県内事業者のSDGsの取り組みは平均24.9%で、造園会社は31.5%で平均を上回っており、造園業界のSDGsの取り組み例としては国土交通省が2015年から推進しているグリーンインフラがあげられ、SDGsの「住み続けられるまちづ

造園が当たり前にやってきたのがSDGs

古橋 弊社は鉄道やホテルなどを含めた企業グループの一員で、グループ全体でSDGsに力を入れているので、その方針がまず前提としてあります。



造園だとSDGsの15番目「陸の豊かさを守ろう」に直結しやすく、グループ内でも、造園事業は全部がSDGsだよねといわれます。しかし、具体的な情報発信はまだまだだったので、一昨年に社内プロジェクトチームが設立され、SDGsに関わる会社の取り組みを整理し、どんな情報発信ができるのかを毎月話し合いました。

それで各部署の情報共有を進め、2021年度末にホームページに「SDGsへの取り組み」をまとめました。

以上が全社的な取り組み状況ですが、先ほど少し話したように、私の部署では、豊島区を盛り上げる地域の企業、住民の方々、SDGsの11番「住み続けられるまちづくりを」も進めています。

地域には、印刷、運送など、いろいろな会社があり、それぞれどんなことができるかを考え、私達は植物管理の中で発生した間伐材の輪切りを材料にしたクラフト系イベントの準備をしています。

1度テストイベントをしたところ大好評で、子どもたちは自由な発想で作品を作り、逆にいろいろなアイデアをいただ

きました。今回の材料も、管理する公園などの植物をドライフラワーにしたものなどもあります。これを使って子どもたちがどんなものをつくるか、ドキドキしながら準備をしています。

また、イベントをきっかけに、今まで繋がりがなかった異業種の方とも情報交換をしたり、何かコラボができたらいいですねと話をしたり、地域の保育園や幼稚園、小中学校から相談に乗って欲しいと、新しい関係性ができたりします。まちづくりへの想いは同じでも、なかなかつながる場がありませんでしたが、SDGsがきっかけで関係性が広がっていると感じます。

SDGsを小難しく机上で考えるのではなく、できることから始めればいんだなと思っています。

すると、「造園ってそんなこともしてるんだ」と、私たちの仕事を知ってもらうことにも自然とつながったりします。

前杉 皆さんの取り組みをお聞きして、地域との連携や造園としてこれまで当たり前前にやってきたことがSDGsにつながっていて、造園の仕事はSDGsそのものだと思いますが、さらにどうですか。

佐々木 造園そのものがSDGsの目標達成に結びついている活動ばかりだと思います。極端に言えば、SDGsの目標に結びついていなければ造園企業として成立しない。社会の役に立つのが仕事であり会社ですから当たり前なんです。

しかし、地方やさまざまな団体で話し

賀春

一般社団法人日本造園建設業協会

専務理事 伊藤吉之

専務理事 藤原幸之

専務理事 正本敬三

専務理事 田丸大

専務理事 井内新也

専務理事 和田優也

専務理事 和義人

専務理事 鈴木正義

専務理事 関盛満

専務理事 高須賀

専務理事 月山光夫

専務理事 中嶋和敏

専務理事 中山祥之

専務理事 成家忠

専務理事 西谷之岳

専務理事 藤巻勝

専務理事 森根清

専務理事 山田忠

専務理事 田代豪

専務理事 渡邊進

専務理事 嘉屋幸

専務理事 古積昇

専務理事 鈴木義

専務理事 近嶋陽

専務理事 中嶋和敏

専務理事 近嶋和敏

専務理事 中嶋和敏

専務理事 西谷勝之

専務理事 高須賀

専務理事 執行英

専務理事 森根清

専務理事 沖繩 九国 中近 北東 北海道

2023年新春座談会

持続可能な開発目標“SDGs”への取り組み 造園の仕事は“SDGs”もっとアピールを

くりを「気候変動に具体的な対策を」「陸の豊かさを守ろう」などの目標に直接的に関係している。

県内の造園業者のSDGs取り組み内容をホームページで確認すると、伐採の際に出た枝や葉などを粉碎して堆肥化したり、枝を薪として売出すなどの取り組みや地元住民へ造園のコーチングを行うなどの活動が見られるが、全体としては少数派であり、逆に言えば、SDGsの伸び代は大きい。

SDGsへの関心では、関心がある企業は約66%、関心がないは約22%、分からないは約12%。取り組む上での課題では、何から取り組んでいいのかわからない36.9%、社内での理解度が低い

32.2%、マンパワーの不足26.6%、社会的な認知度が高まっていない25.1%、定量的な指標など評価方法が分からない21.9%、行政の支援や環境が希薄19.8%、資金不足19.3%などで、造園業は、SDGsへの取り組みは、入札の加点やサプライチェーンからの締め出しなど、「抗えない時代の流れ」であり、造園業はSDGsとの親和性が高く、17の目標に自社との関わりをマッピングすることからはじめ、経営陣の関与でできることから取り組みを始めることが成功への道筋と紹介しています。

今日の座談会も1、2年前だったら先走り感があり、いいタイミングですし、これからが楽しみだと思っています。

地域とのつながりが持続に不可欠

廣部 地域と大資本の話がありました。が、札幌初のPFIは不調でした。

弊社は地元グループで提案する予定でしたが、テナント誘致に奔走してくれたデベロッパーさんがテナントは大手さんがすでに抑えて、どうにもならないと断念したところ、最終的には応募がありませんでした。

地元の造園会社1社でできることは限られますが、だからこそ地域との連携を大事にし、地域があってこそ自分の自分たちということを常に考えています。

SDGsを活用して、地域や持続可能ということは、どういうことなのかを地元自治体を含めて、議論していくと、より実効が増すように思います。

前杉 今回の話には、つながりという言葉が多く出てきていますが、SDGsは持続可能ということで、未来につながることもあり、キーワードになると思いましたが、古橋さんいかがですか。

古橋 プレゼンテーションをする側にも5年ほどいたことがあり、Park-PFIが始まった頃に、いろいろな自治体のサウンディングなどにも対応し、実際に応募したこともあります。

資本力のあるところとも何度かプレゼンでバッティングしましたが、資本だけでなく、情報とスピードも凄く、そうした部分では太刀打ちが難しいですね。(笑)

だからこそ、「地元」というのが私たちの強みです。PPP案件が出たから顔を出すのではなく、脈々と続けてきたつながりがあるからできることを私たちは積極的にアピールする必要があるでしょうし、持続可能性を重視して評価してもらえるような仕組みを自治体と一緒に議論していくのもいいと思っています。

コロナで対面で会えない期間がありましたが、つながりを大切に、地道な草の根活動みたいですが、そうしたことがSDGsでも大事だと思います。

前杉 そういう事例やそのほかのお考え

などいかがですか。

佐々木 SDGsが出てきたときに造園企業の皆さんが率直に感じた通りだと思うんです。SDGsがあろうとなかろうと私たちは自分の信じた造園道を歩んでいく。ですからSDGsに固執した物事の進め方でなく、SDGsという世界の潮流である17の目標にもリンクしながら、自分たちのPDCAサイクルに落とし込むことが大事です。

一方で、造園企業の息子が造園をやりたいと思わなければ、それこそ、自分たちのやっている企業運営がおかしいと思わないと。就労促進をしたところで自分の子供が働きたくないという仕事を人に勧めるのは難しいでしょう。

また、インターンシップに取り組んでいる会社は多いと思います。弊社も中高生を1から2日間受け入れて、職員がつきっきりで対応していますが、それをきっかけに入ってくる子たちはあまり見かけません。

農業高校であっても学校のカリキュラム自体が就業向けではなく、進学を推奨する傾向にあるので、教育の視点から見直しなども含め、改善が必要です。

渡邊 今の学生さんはSDGsの知識があり、そういうことに取り組んでいる会社かをネットで調べて、会社を選ぶ時の参考にしていますし、私どもの会社も、まだまだ就労環境が良いとは言えないので改善が必要です。佐々木さんの会社のように健康診断100%とするためにSDGsを利用できないかを考えています。

ネットに載せたら実行しないと嘘になります。健康診断受診100%と書いてしまえば、そうしなければならなくなり、そのための体制が逆に社内につくることができます。順序が逆かもしれませんが、結果的に本人や家族、会社や入職者へのアピールになります。そんなやり方もありかなと思いました。

SDGs きっかけに未来へつなぐ

前杉 若者の就業対策だけでなく、社員の健康、家族の安心につながることであれば、取り組み方はいろいろあってもいいですね。選ばれる企業になるための戦略はすごく大事になると思います。

松戸 経営者や中間管理職の立場でSDGsの目的や目標を達成するための学びの場が必要だと思っています。

そうした学びの場がないので、具体的に取り組むしかないというのが現状で、

カードゲームなどの考え方も参考になったりしますが、時間とお金をかけるほど、執着する気持ちも大きくなります。

SDGsの会社としての取り組みは、1人ではできませんから、誰かを巻き込み、NPOでも官民連携でも取り組みを進めていくと勢いもつくのですが、一生懸命やってもSDGsウオッシュ（言っていることとやっていることが違う）が出たり、行き詰ったりするかもしれま

せんが、それもひとつの通過点で、答えの出し方は何通りもあると思います。

40人程度の会社ですら、ホームページやSNSを毎日更新しても、社員全員が見ているかというそんなことはなく、アカウントのフォローもしていない社員もいます。

社長のトップダウンとか、上からの押し付けではないやり方が必要だと考えており、SDGsに関する社外への発信も学びたい社員が自由な考え方で、学んでくれば社内の人材育成にもつながると前向きな気持ちでやっています。

昨年の春からは、完全週休二日制を導入し、年間休日122日と、大変なことをしたとの思いもありますが、SDGsをきっかけにできることに取り組んで、未来につなげていければと思っています。

それと、インターンシップの話がありましたが、弊社では会社の見学会を毎月第2土曜日に開催し、コロナ禍で最近

は不定期になっていますが、継続中です。出前講座も今月も小学校と中学校に行き、造園の仕事について話をします。

小学校低学年の女の子は、大きくなったらお花屋さんになりたいというのがべ

スト5に入っていたりしましたが、大きくなるとお花屋さんを希望する子もいなくなってしまい、佐々木さんが話していたように、高校生ではなく、中学生、小学校の高学年にターゲットを絞って出前講座に行くようにしています。

こうした活動の結果かどうか分かりませんが、えるばしやSDGsに取り組んで来たことで、その方面のトップランナーみたいに市役所からも評価をしていただき、松戸市内には千葉大学のほかに4つの大学がありますが、都内ではなく、市内に就職してもらおう仕組みを連携してつくりたいとご提案をいただいています。

古橋 社内の取り組み事例ですが、入社1年目の社員研修に会社でどんなSDGsができそうか、忌憚のない意見を出してもらう発表会があり、農業に関するものだったり、身近なところでは、オフィスの給湯室に家庭用の生ごみコンポストをおいたらどうか？や、NoプラスチックDAYなどのアイデアが出ていて、面白いので、個人的には今後、中間管理職や2、3年目の中堅社員などの意見も聞いてみたいと思っています。

SDGsを活用し造園建設業界の発展へ

前杉 SDGsは世界の大きな取り組みですが、自分ごととして考え、取り組めるところが素晴らしい点だと思いますが、最後に言い残したことや業界全体などで、何かございますか。

廣部 私たちは民間企業ということで営利団体であることは否定のしようがない事実であり、持続可能にするには適切な利益を上げ続けなければなりません。

ですから、SDGsをアピール材料にして会社を存続させるために使えばいいと考えるとSDGsにもっと取り組みやすくなると思います。

そういう風に造園業界もSDGsを活用していけばいいのではないのでしょうか。

佐々木 参考になるお話をいろいろと聞かせていただき、自社の課題解決につながる項目もまだあるので、それを1つずつ解決しながら会社を継続することがすべてだと思います。

中でも、一番大事なものは人材の確保で、そのためにRPA（Robotic Process Automation）にチャレンジします。機械ができるものは機械で、人でなければできないことを人がやる。書類整理などの事務から現場作業まで、機械ができることは意外とまだまだあって、それによって仕事なくなるということではなく、造園の価値は、五感をフルに生かして、世の中に作品を提示すること。人間でなければできないことをするからこそ付加価値があると考え、それを突き詰めてシステムづくりを行いたい。

また、自動化した芝刈り機をプログラミングから取り組み、イニシャルコストを抑える仕組みを模索中です。

デジタルネイティブで育った世代やいわゆるZ世代の若手社員もおり、受け入れていかなければならない時代です。ただし、基盤は造園であり、地域あつての営みであり、それをより高めるための取り組みを続けていきたいと思っています。

松戸 チェーンソーの切りカスを吸い取る特許を現場のアイデアをもとに開発して取得しました。今後、販売をしていきたいのでよろしく願います。(笑)

最後の一言としては、造園業界も自社も選ばれるものにするということが、SDGsの活用を含め、一番大事なことだと考えています。SDGsの認証会社でない取引ができないような流れもあります。

ご紹介していませんでしたが、令和3年度千葉県男女共同参画推進事業所5社に選ばれ、建設業はうちだけでした。この数年、地域リーダーズのこともあり、自分が具体的にやっていないことを他に言うことはできないので、そういう気持ちで取り組んできました。

造園の仕事自体は素晴らしいことなので、選ばれる努力を私たちがしていけば、より良いまちや環境がつけれると思っています。

渡邊 私はSDGsを使って、業界特有の働く環境を少しでも改善し、働きやすい環境を提供できれば、社員のやりがいにつながるのではないかと確信しました。

SDGsは世の中のためだけでなく、自分のためという部分をキーワードにしながらいろいろと取り組んでいければと思っています。

また、古橋さんからお聞きした新入社員研修は、今後の取り組みの参考にさせていただきたいと思っています。今日はたくさん活用できるお話をいただきました。ありがとうございました。

古橋 女性活躍の話も出て、皆さんがいろいろなことに取り組んでいることを実際に聞くことができ、こうした場に出させていただいた会社にもとても感謝しています。会社や個人のイメージや漠然としたことをSDGsに当てはめると、整理も活用もできて、便利だと再認識しました。

私自身すぐく勉強になり、新しい気づきもいただきました。こうした情報共有の場がこれからはあるとありがたいです。ぜひ、よろしく願います。

前杉 ちょうど時間になりました。お話をお聞きし、SDGsを活用してこれからの皆さんの活動とそれから造園建設業界の発展につながっていくといいなと思いました。本日はありがとうございました。